

令和 4 年 5 月 17 日

逢初川源頭部の盛り土の安定性に関する未公表部分の対応等について

静岡県

逢初川源頭部の盛り土の安定性に関する未公表部分（P 部、E 部）の評価及び今後の対応を報告する。



1 P 部（推定土砂量：不明※1）

※1 10,000m³前後と思われるが、盛り土前の精度の高い地山データが無いいため、推定土砂量は不明とした。

（1）盛り土の安定性

① 県や地質専門家等による現地調査

- ・地盤や植生に変状は見られず、すぐに表層崩壊が発生するようには見えない。（県は 2021 年 7 月 4 日の朝以降、幾度もこの場所の変状を調査しているが、現在まで変状は見られない。）
- ・湧水の流出箇所は見られない。
- ・P 部の下部は森林となっており、一定の安定性は確保されているように見える。

② 地形・地質調査

- ・地下水の集水や滞留する可能性が低く、降雨時に地下水位が上昇する傾向も見られない。（ボーリング調査、電気探査より）

③ 安定性の評価

- ・標高が比較的に高い場所にあるため、盛り土内に地下水や表流水が集中しやすい場所ではない。
- ・変状も無く、盛り土内の水の飽和線※2 が上昇する見込みが低い。
※2 飽和線：土の中の空隙を全て水で満たされている状態の高さを示す線
- ・下部の盛り土が安定していれば、崩壊の可能性は低い。

（2）今後の対応

安定性の面からは早急に撤去をする必要はないが、廃棄物が埋められていることから、砂防担当部局と廃棄物担当部局とが連携し、土地所有者に対策を求めていく。

2 E部（推定土砂量 1,800m³※3）

※3 いつ誰が盛り土をしたかは現時点では不明。盛り土厚が薄いため、過去と現在の地形データの比較では、土砂量の推定が困難。現場の掘削調査等により土砂量を推定した。

（1）盛り土の安定性

① 県や地質専門家等による現地調査

- ・地表面がふかふかしており、粘土層の上に堆積しているように思える。
- ・立ち木が傾斜しており、段差地形が不規則に確認できることから、土砂の変位がすでに発生している。
- ・湧水の流出箇所は見られない。
- ・産業廃棄物（レンガ、ガラス、コンクリート殻など）が確認される。

② 地質調査

- ・試掘したところ、地表 50 cm位までは廃棄物を含む黒褐色の盛り土でありスコップで掘ることができたが、それより下位の茶褐色の土はスコップで容易に掘ることは困難な固さ。
- ・盛り土縦断上の中間部において横断に沿って簡易貫入試験を実施。その結果、表土から約 2m までが軟らかい土層が分布しており、この層まで盛り土である可能性が高いと判断できる。

③ 安定性の評価

- ・黒褐色の盛り土は軟質な土層であるため、土層から判断できる限界勾配に近いと判断される。
- ・斜面内に分布する黒褐色の盛り土には、所々に段差地形が発生していることから、安定性は低いと判断できる。
- ・その下位に分布する茶褐色の土層は軟質な部分が認められる深度まで、豪雨により崩壊する可能性を否定できない。

（2）今後の対応

- ・これまでは、当面は隣接道路からの雨水の流入対策を行い、本格的な対応は詳細調査の上検討するとしていた。
- ・本調査の結果、盛り土量は 1,800m³ 程度と推定され、また、雨水を貯留する地形でないことから、たとえ崩落しても土砂の表層崩壊となる（大量の水分は含まない）可能性が高い。このため、崩落土砂は砂防堰堤で捕捉することができると考えられる。
- ・今回の調査により崩落の危険性が確認されたことから、安全性の確保のため盛り土を撤去する。
- ・盛り土の行為者が特定できないことから、県が土砂の撤去を行う。

問合せ先

くらし・環境部廃棄物リサイクル課 片山、紅林 054-221-3328

盛土対策課 望月 054-221-3302

交通基盤部河川砂防局砂防課 杉本、西川 054-221-3382